

自民党の吉川貴盛元農水相(衆院道二区)が在任中、鶏卵生産大手の元代表から現金を受領していた疑惑が浮上した。吉川氏は菅義偉首相と初選同期で側近の一人とされ、鈴木直道知事や秋元克広札幌市長と中央政界とのパイプ役を務めてきた。この原稿の執筆時点で捜査の動きは見えていないが、立件された場合は道と札幌市の行政運営に影響を及ぼす可能性もある。関係者は行方を注視している。

「おかしなお金をもらうような人じゃないはずなのに」。吉川氏をよく知る道内関係者は、新聞各紙が吉川氏の疑惑を報じた十二月二日の朝刊を見て、驚きの表情を隠さなかった。各紙によると、吉川氏は農水相在任中、大臣室で三回にわたり、鶏卵生産大手「アキタフーズ」(広島県福山市)グループの元代表から計五百万円を受け取っていた疑いがあるという。東京地検特捜部が経緯の解明を進めているもようだ。

吉川氏は入院中とされ、報道後に体調不良を理由として自民党道連会長をはじめ党の役職をすべて辞任。「国会審議と党運営にご迷惑をおかけしたくない」とのコメントを発表したが、疑惑については触れなかった。

道内政界ではかつて、全国区な知名度がある町村信孝前衆院議長、中川昭一元財務相、武部勤元幹事長が「ビッグスリー」と呼ばれ、大きな影響力を持っていた。しかし、中川氏が二〇〇九年に急死し、武部氏

「政治とカネと行政」

は一二年に政界を引退、町村氏も一五年に死去した。吉川氏は重鎮三人が表舞台を去った後の一六年に党道連会長に就任。官房長官だった菅氏との関係の近さもあって、一八年に発足した第四次安倍改造内閣で農水相として初入閣し、道内政界で存在感を増していった。

象徴的だったのは、昨年の知事選での候補者選びだ。吉川氏は党道連会長代行の長谷川岳参院議員と共に、菅氏の意中の人とされた鈴木直道知事の擁立に奔走した。橋本聖子五輪相、高橋はるみ前知事らは国土交通省の当時の北海道局長を支持し、道議の中にも推す声があったが、鈴木氏が無所属での立候補を表明。最終的に自民党は鈴木氏の推薦を決め、吉川氏らが押し切った格好となった。こうした経緯もあり、吉川氏は道政に大きな影響力を持つ一方、道内には吉川派と反吉川派の遺恨を残した。

札幌市の秋元市長の一期目は、上田文雄前市長の後継として旧民主党などの支持を受けて初当選しただけに、自民党との接点は少なかった。ところが昨年の市長選では、自民党を含む主要政党の相乗りで再選。新型コロナウイルス対策や胆振東部地震被害の復旧、インフラ整備などに関し、市として自民党国会議員に要望する機会も増えた。市幹部は吉川氏について「国政関連で要望事項があったときに、真つ先に名前が挙がる人」と明かす。

自民党道連内では、来年の衆院選に向けて次期会長の早期決定を求める声が強まり、反吉川派が橋本氏を推すなど早くも主導権争いが始まっている。関係者は「吉川氏が今後どのような扱いを受けるにしても、影響力の低下は避けられないだろう」とみる。

吉川氏は地元の道二区(札幌市北区の一部、東区)で支持基盤が弱いとされ、これまでの衆院選で野党候補と激戦を繰り広げてきた。自民党関係者は「立件されれば大きな打撃。来年の衆院選で勝つのは難しくなる」と話す。早くも候補差し換え論が浮上し、吉川氏の長男の吉川隆雅道議や地元市議の名前が取り沙汰されている。

同選挙区で松木謙公前衆院議員の擁立を決めている立憲民主党は、今回の疑惑をてこに攻勢を強める考えで、候補擁立を決めている共産党とも調整する方針だ。立憲関係者は「大きなチャンス」としながら、「吉川氏は戦いやすい相手。そのまま出てくれるのが一番良いの」と話す。

道や札幌市の幹部からは、吉川氏について「国とのパイプ役がいなくなると困る」との声が漏れる。その一方で「誰かがいなくなっても、別の政治家がその役割を担うだけ。その政治家と関係を築けばいい」と割り切った見方を示す関係者もいる。行政の安定性を維持するためには、移ろいやすい政治の世界とは一定の距離感を保つ必要があるという意味だろう。

△魚▽